

「空から見守る」で省力化!

(奈良県・明日香村農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

【農業委員会の体制】(令和5年7月20日移行)

○農業委員14人、農地利用最適化推進委員6人

1 地区の特徴・状況、課題

○本村は、奈良盆地の南東部に位置し、大阪から約40km、奈良市から約25kmの圏内にあり、飛鳥時代の6世紀末から7世紀にかけて「都」が営まれた地域であり、村内には宮跡・寺院・古墳などの文化遺産が数多く存在し、周囲の田園景観と一体となって歴史的風土を形成している。

○本村の農業は単に農作物の生産機能を担っているだけでなく、歴史的風土の保存においても、極めて重要な役割を果たしているが、農業従事者の高齢化、後継者不足が深刻な問題となっている。また、米価の低迷や有害鳥獣による農作物の被害などによる、農業者の生産意欲の低下や耕作放棄が大きな課題となっている。

2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

○令和6年度の農地パトロール(利用状況調査)より、農地の現状把握の効率化かつ委員の負担軽減のため、無人航空機(ドローン)を導入している。上空からの撮影を行うことで山間部や袋地など確認が困難な農地においても確認が容易となり、かつ、委員に新技術を身近に感じてもらうことで、地域の農業者にも農業のデジタル化が波及するように期待している。これらの映像を活用し、所有者への声かけや担い手への斡旋へつなげていく方針。

また、例年3月に実施される飛鳥ハーフマラソン沿道の耕作放棄地において、農業委員会主体で菜の花を作付けするなど景観形成についても啓発活動を行っている。

3 活動(取組と工夫)の結果

○事務局職員が事前に撮影した映像を室内で確認することで、調査の時間短縮と熱中症予防につながる。

○今後は、これらの映像を活用し、所有者への声かけや担い手への斡旋につなげていく方針。



撮影風景



撮影確認